

聖徳太子『憲法十七条』関係研究文献目録（稿）

所
功

〔凡 例〕 本稿は、「聖徳太子の作と伝えられる『憲法十七条』（『日本書紀』 卷二十二・推古天皇十二年甲子（六〇四）四月戊辰条に全文取載）に関する明治以降（平成十七年末まで）の研究文献（著書・論文）目録である。

その素材は、A若林隆光氏編「聖徳太子関係文献目録（正・統）」（A正Ⅱ昭26『聖徳太子と日本文化』、A統Ⅱ昭46『聖徳太子論集』、共に聖徳太子研究会編・平楽寺書店刊）、及びB聖徳太子研究会編『『憲法十七条』文献目録』（昭43「聖徳太子研究」四）、更にC松田和晃氏編「聖徳太子関係文献目録」（平9・石田尚豊氏編『聖徳太子事典』 柏書房刊）から抄出し、併せて管見に入った遺漏の補遺とC以降の追加を試みた（ほぼ発行・出版の年順、敬称略）。

なお、D五十嵐祐宏氏編「聖徳太子関係文献」（昭18、同氏著『憲法十七条序説』藤井書店刊）には、『憲法十七条』に関する明治以前の版本と注釈書等（D）並びに明治以降の啓蒙的解説書等（D'）も採録されており、そのうちD・D'の主要なものがE坂本太郎氏編『聖徳太子全集』第一巻（昭17、聖徳太子奉讃会監修、龍吟社刊）に集成されている。¹⁾

ここには参考のため、主題に直接関係するものに限り概説的・啓蒙的なものも含める。その反面、主題に論及することの多い聖徳太子の伝記²⁾、及び大化改新・律令制度に関する研究文献は、際限がないのでほとんど割愛する。

- 有賀長雄「聖德太子十七憲法」（明26『日本古代法積義』）
- 島田蕃根「聖德太子憲法積義」（明27『日本宗教』一〇三）
- 小中村清矩「国史学の栞（承前）——十七条憲法ほか」（明28『国学院新法六』）
- 清原公譚「憲法十七条衍義」（明30、樹心閣）
- 清原得静編『推古天皇十七憲法和訳』（明35、宗祐寺）
- 石橋五郎「聖德太子十七条憲法評論（上・中・下）」（明35、「歴史地理」四—三・四・五）
- 如幻道人（中島寛亮か）『聖德太子十七憲法講話』（明37、為法館）
- 黒板勝美「聖德太子の十七条憲法に就て」（大5「東亞之光」十一—一〇—一一）
- 岡田正之「憲法十七条に就いて」（大5「史学雜誌」二十七—一〇—昭4『近江奈良期の漢文学』東洋文庫論叢一〇）
- 橋川 正「憲法十七条と上宮御製疏」（大7「歴史と地理」二—二）
- 加藤拙堂『十七条憲法講話』（大9、丙午出版社）
- 三浦周行「聖德太子の憲法十七条」「憲法十七条の性質及び価値」（大10、平安考古会編『聖德太子論纂』平楽寺書店↓
大14、三浦『続・法制史の研究』岩波書店）
- 植木直一郎「聖德太子の十七条憲法論」（大10『国学院雜誌』二十七—四・五・七・一一）
- 西岡虎之助「十七ヶ条憲法の復活」（大12「歴史地理」四十二—三）
- 内藤湖南「古写本日本書紀（憲法十七条の訓読）に就いて」（昭2、大阪毎日新聞社刊影印本釈）

- 牧 建二「十七条憲法と羅馬十二表法との比較」(昭2「歴史と地理」二十一)
- 松尾清明『聖德太子古憲法明弁』(昭4、六盟館)
- 津田左右吉「応神天皇から後の記紀の記載」(昭5『日本上代史研究』岩波書店↓昭24、『日本古典の研究』下)
- 会田範治『聖德太子憲法と法王帝説の研究』(昭5、山喜房仏書林)
- 新井石禪『十七憲法講話』(昭5、同全集8)
- 田中義能「十七条憲法」(昭6『井上先生喜寿記念文集』富山房)
- 辻善之助編『聖德太子十七条憲法』(昭7『日本思想教書』1、文部省社会教育局)
- 境野黄洋『十七条憲法講話』(昭8、中央仏教社)
- 小林一郎『聖德太子の御事績共に十七条憲法に記して』(昭8、清明)
- 古賀友太「聖德太子の十七条憲法に現れたる儒教精神」(昭9「日本精神研究」三)
- 小林一郎『聖德太子の憲法と大乘仏教』(昭9、大衆仏教会)
- 瀧川政次郎「十七条憲法と大化改新」(昭9「史学雑誌」四十五―八)
- 武田信寛「聖德憲法の一考察」(昭10「中央仏教」十九―三)
- 暁鳥 敏『聖德太子十七条憲法講話』(昭10、日本放送出版協会↓昭31、同全集5)
- 小野精一郎「聖德皇太子十七条憲法の国法性」(昭10『仏教学の諸問題』岩波書店)
- 高島米峰『十七条憲法略解』(昭10、聖德太子奉讃会)
- 梅原真隆『十七憲法講讀』(昭11、親鸞聖人研究所)
- 奥田慈応『聖德太子十七条憲法訳註』(昭11、勝鬘院)

- 白井成允『聖德太子の十七條憲法』（昭12『日本精神叢書』16、文部省思想局）
- 白井成允『十七條憲法と勝鬘經義疏との思想的関連』（昭12、速水博士還曆記念『心理学哲学論文集』岩波書店）
- 小笠原秀寛『聖德太子憲法十七條と勝鬘經十大受との思想内容に就いて』（昭13「摩訶衍」18、仏教大学）
- 永島雲平『聖德太子十七條憲法の現識』（昭13、北海道教育新聞社）
- 小野精一郎『憲法十七條に於ける国家と論理』（昭13「改造」二十一—八）
- 佐伯定胤『十七條憲法と大乘仏教』（昭14『教学叢書』6、文部省教学局）
- 小野精一郎『憲法十七條の宗教的基礎』（昭15『日本仏教の歴史と理念』明治書院）
- 堀 一郎『聖德太子の「和」の精神』（昭15『日本上代文化と仏教』法蔵館）
- 釈迦覺蘊『新釈十七條憲法講話』（昭15、永田文昌堂）
- 池田 榮『聖德太子と衆議政治』（昭15、京大「法学論叢」四十二—一）
- 五十嵐祐宏『聖德太子と十七條憲法』（昭16、日本放送出版協會）
- 姉崎正治『聖德太子の理想と政治』（昭16、宗教雜誌社）
- 姉崎正治「編纂集成の三經義疏抄と十七條憲法の篇章及外國語（英仏独）訳文に就いて」（昭16「日本上代文化の研究」
- Ⅱ『法相』特別号、法相宗勸学院同窓會）
- 白井成允「十七條憲法の根本思想」（昭16、同右）
- 金子大栄「十七條憲法と勝鬘經」（昭16、同右）
- 奥田慈応『聖德太子十七條憲法講話』（昭16、勝鬘院）
- 安井広度「聖德太子十七條憲法第二條の研究」（昭16「大谷季報」二十二—三）

- 池田 栄 「聖德太子と教導国学思想」(昭16、17、京大「法学論叢」四十六・三・五、四十七・五)
- 姉崎正治 「三経義疏に参照して十七条憲法の意義内容」(昭17「帝国学士院紀事」一一一)
- 坂本太郎 「十七条憲法解題」(昭17『聖德太子全集』1「十七条憲法」、龍吟社↓昭63、臨川書房)
- 行元自忍 『聖德太子と憲法十七条』(昭17、巖松堂)
- 富貴原章信 「十七条憲法に於ける仏教思想」(昭17「大谷学報」二十三―三)
- 五十嵐祐宏 『憲法十七条序説』(昭18、藤井書店)
- 佐伯定胤 『聖德太子の憲法』(昭18、朝日新聞社)
- 花山信勝 『憲法十七条の精神』(昭18、厚徳書院)
- 黒上正一郎 『聖德太子の信仰思想と日本文化創業』(昭21、国民文化研究会)
- 西岡虎之助 「十七条憲法」(昭22「国民の歴史」6月号)
- 猪熊兼繁 「聖德太子の立法」(昭26、京大法学会『法学論叢』五十七―四)
- 小野精一郎 「新憲法と聖德太子」(昭26、同右)
- 渡部孝順 「聖德太子十七条憲法に於ける仏教解釈」(昭26「大乘禪」二十八―一二)
- 和辻哲郎 「聖德太子の憲法における人倫思想」(昭27『日本倫理思想史』岩波書店)
- 岩井大慧 「十七条憲法は太子の独創か」(昭29「歴史教育」二一一)
- 岩井大慧 「十七条憲法は果たして聖德太子の独創なりや」(昭29「駒沢史学」四)
- 永江新三 「思想上の十七条憲法」(昭29「歴史教育」二一四)

- 坂本太郎 「憲法十七条の十七の数」（昭29 「四天王寺」一六六）
- 坂本太郎 「聖徳太子の賢聖政治思想」（昭29 「四天王寺」一六八）
- 福井康順 「以和為貴の大典と十七条憲法の精神」（昭29 「四天王寺」一七〇）
- 白井成允 『十七条憲法講讀』（昭30、百華苑）
- 金森徳次郎 「太子憲法の本質」（昭30 「宗教公論」二五—四）
- 塩谷 温 「太子憲法と儒教」（昭30、同右）
- 中山久四郎 「太子憲法と仏教」（昭30、同右）
- 岩井大慧 「太子憲法と西蔵十六清浄法」（昭30 「宗教公論」二五—五）
- 喜多川忠一 「聖徳太子の政治思想」（昭31 『群馬大学紀要』人文科学局5）
- 寺田作吉 「創作十七条憲法」（昭31 「四天王寺」一九四—）
- 宮田俊彦 「憲法十七条」（昭31 「歴史教書」四—四）
- 村岡典嗣 「憲法十七条の研究」（昭32 『日本思想史研究』二）
- 八木格治 「十七条憲法と維摩経義疏」（昭32 「藝林」八一—三）
- 直木孝次郎 「政治上の推古朝」（昭33 『日本古代国家の構造』青木書店）
- 望月一徳 『憲法十七条』（昭33、綜合歴史研究会）
- 山田龍城 「十七条憲法と人間尊重の精神」（昭33 「四天王寺」二一七）
- 田中 卓 「飛鳥時代の政治状勢」（昭35 「歴史教育」八一—四↓昭60、同著作集5）
- 八木格治 「憲法十七条の研究史」（昭35 「歴史教育」八一—四）

- 五十嵐祐宏「十七条憲法と現代の政治原理」(昭35「四天王寺」二二六)
- 宮田俊彦「聖徳太子の新政と大化改新」(昭35「神道史研究」八一六)
- 今井道鑑「日本国憲法から見る聖徳太子の憲法」(昭36「四天王寺」二五三)
- 望月一徳「憲法十七条に関する一考察」(昭36「綜合歴史研究」一一二)
- 奥田慈心「聖徳太子十七条憲法講讀」(昭36「四天王寺」二四九、二五四)
- 浅野政太郎「十七条憲法に於ける儒教思想」(昭37、福井「漢文学」一〇〇)
- 黛 弘道「推古朝の意義」(昭37『岩波講座日本歴史』古代2)
- 日野 昭「日本書紀における聖徳太子」(昭37「龍谷史壇」五〇)
- 奥田慈心「聖徳太子と十七条憲法」(昭37「研究仏教」一一四)
- 瀧川政次郎「国家制法の始『上宮太子憲法十七箇条』」(昭38「国学院大学紀要」五↓昭42、法制史論叢1『律令格式の研究』角川書店)
- 佐々木憲徳「十七条憲法の問題点」(昭39「四天王寺」二八一)
- 石尾芳久『日本古代法史』(昭39、塙選書)
- 田村圓澄「聖徳太子における政治と仏教」(昭39「日本仏教学会年報」二九)
- 井上光貞『日本古代国家の研究』(昭40、岩波書店↓昭60、同著作集1)
- 白石 重『聖徳太子―憲法思想とその背景―』(昭41、松風社書房)
- 吉川幸次郎「聖徳太子の文章―『十七条憲法の問題点―』(昭41、同全集23、筑摩書房)

- 坂本太郎 「憲法ということば」（昭41「とみのおがわ」1）
- 田中重久 「十七条の政事・修国・修身の事の研究（上・下）」（昭41・42「聖德太子研究」二―三）
- 白井成允 『十七条憲法講話』（昭42、聖德太子会）
- 坂本太郎 「聖德太子と十七条憲法」（昭42「聖德太子研究」三↓平元、同著作集9）
- 井上 薫 「推古朝の諸問題」（昭42『古代学論叢』末永先生古稀記念会）
- 坂本太郎 「憲教十七条序及び第十条」（昭43「とみのおがの」三）
- 横田健一 「十七条憲法の一考察」（昭43『日本書紀研究』三、塙書房）
- 奈良元 「十七条憲法の第二条について」（昭43「宗教研究」四十一―三）
- 藤田 清 「憲法十七条の思想史的研究」（昭43「聖德太子研究」四）
- 藤田 清 「憲法十七条の聖德太子新撰に関する研究」（昭43「印度学仏教学研究」十七―一）
- 望月一徳 「憲法十七条と聖德太子」（昭43「聖德太子研究」四）
- 望月一徳 「法華義疏と憲法十七条との関係」（昭43「綜合歴史研究」三一・二、昭44「宗教研究」四十二―三）
- 望月一徳 「憲法十七条と維摩経義疏との関係」（昭44「印度学仏教学研究」十八―一、昭46「聖德太子研究」六）
- 大野達之助 『聖德太子の研究―その仏教と政治思想』（昭45、吉川弘文館）
- 中村元訳 「THE SEVENTEEN-ARTICLE CONSTITUTION」（昭45「聖德太子研究」五）
- 望月一徳 「憲法十七条の立体構造」（昭45「史学雑誌」七十九―七）
- 望月一徳 「篤敬三宝章について（正・続・三）」（昭45・46・47「印度学仏教学研究」十九―一・二十一―一・二十一―二）
- 長沼賢海 『聖德太子論攷』（昭46、平楽寺書店）

- 田中稔「十七条憲法版本」(昭46『奈良六大寺大観』四、岩波書店)
- 井上光貞『日本古代の国家と仏教』(昭46、岩波書店↓昭61、同著作集8)
- 井上光貞「十七条憲法と三経義疏」(昭46「聖徳太子研究」六↓昭50『日本古代仏教の展開』吉川弘文館↓同著作集9)
- 井上光貞「日本古代国家の成立―推古朝の意義―」(昭46「凶書」二六四〜六↓昭50『古代史研究の世界』吉川弘文館)
- 小島憲之「憲法十七条の訓読をめぐる」(昭46『聖徳太子論集』平楽寺書店↓昭47、坂本太郎博士古稀記念会編『統
日本古代史論集』中、吉川弘文館、昭48『国風暗黒時代の文学』中(上)塙書房)
- 福井康順「十七条憲法所引外典考」(昭46、同右)
- 中村 元「聖徳太子の思想の比較思想的考察」(昭46、同右)
- 坂本太郎他「座談会 聖徳太子研究の回顧と展望」(昭46、同右)
- 望月一徳「維摩経義疏と憲法十七条と」(昭46「聖徳太子研究」六)
- 阿部隆一「近世初期以前十七条憲法読本解題並校勘記」(昭47「斯道文庫論集」一〇)
- 望月一徳「憲法十七条における仏教と儒教と(正・統)」(昭48・49「宗教研究」四十六―三・四十七―三)
- 武田賢寿「十七条憲法の一考察―仏教との関係―」(昭48「同朋大学論叢」二八)
- 高橋事久「聖徳太子の仏教精神について―十七条憲法よりみて―」(昭48、龍谷大「仏教史研究」六)
- 太田晶二郎「重要文化財 嘉禎本 十七条憲法は偽物である」(昭49「東京大学史料編纂所報」八↓平3、同著作集2)
- 望月一徳『憲法十七条論攷』(昭49、山喜房仏書林)
- 慶応大学斯道文庫(太田次男他)編『諸本対照 十七条憲法訓読並校異』(昭50、汲古書院。初出昭47)
- 家永三郎「憲法十七条」(昭50、日本思想大系『聖徳太子集』岩波書店)

- 築島 裕 「『憲法十七条』『勝鬘經義疏』『上宮聖徳法王帝説』の国語史学的考察」（昭50、同右）
- 高橋事久 「聖徳太子の仏教と政治」（昭50 『印度学仏教学研究』二十三―二↓昭51 『聖徳太子研究』九・一〇〇）
- 高橋事久 「聖徳太子の憲法十七条について」（昭50、同右二十四―一）
- 出射義夫 「聖徳太子十七条憲法の時代的背景」（昭51 『独協法学』八）
- 藤田 清 「聖徳太子の政治原理」（昭51 『印度学仏教学研究』二十四―二）
- 望月一徳 「『勝鬘經義疏』と憲法十七条」（昭51 『宗教研究』四十九―三）
- 望月一徳 「憲法十七条と三経義疏」（昭51 『聖徳太子研究』九・一〇〇）
- 出射義夫 「聖徳太子憲法と本文注釈」（昭52 『独協法学』九）
- 宮田俊彦 「憲法十七条について」（昭53 『聖徳太子研究』一二）
- 藤田 清 「憲法十七条奉讃」（昭54 『聖徳太子鑽仰』中外日報社）
- 大山誠一 「聖徳太子と大化の改新」（昭54 『歴史公論』五一―一）
- 田村圓澄・上原 和・黛 弘道 「座談会」聖徳太子の虚像と実像」（昭54、同右）
- 梅原 猛 「聖徳太子2―憲法十七条―」（昭56、小学館↓平5、集英社文庫）
- 新野直吉 「聖徳太子の政治」（昭56 『東アジアの古代文化』三一）
- 斎藤 博 「聖徳太子の国家理想―近代法の限界と十七条憲法」（昭56、駒沢大 『仏教経済研究』一〇〇）
- 花山信勝 「聖徳太子と憲法十七条」（昭57、大蔵出版、平5、同上）
- 榊田秀山 「十七条憲法覚書ノート」（昭58 『聖徳』九五―一〇〇〇）
- 時野谷滋 「冠位十二階の思想史的考察」（昭59 『大倉山論集』一七↓平2 『飛鳥奈良時代の基礎的研究』国書刊行会）

- 村尾次郎「飛鳥の礼文」(昭61「大倉山論集」二〇)↓平元『総合研究 飛鳥文化』国書刊行会)
- 利光三津夫『日本古代法制史』(昭61、慶応通信)「十七条憲法」
- 直木孝次郎「津田史学と憲法十七条」(昭61「津田左右吉全集月報」一、『飛鳥奈良時代の考察』)
- 武光 誠・前之園亮一編『聖徳太子のすべて』(昭63、新人物往来社)
- 森 博達『「十七条憲法」の倭習』(昭63、同志社大『考古学と技術』)↓平11『日本書紀の謎を解く』中公新書)
- 侯野太郎「続稿 十七条憲法」(昭63「大倉山論集」二四)
- 岩崎允胤「聖徳太子と憲法十七条の思想」(平元、大阪経済法科大『論集』三七)
- 家永三郎・古田武彦『聖徳太子論争』(平元『市民の古代』別巻1、新泉社)
- 袴谷憲昭「聖徳太子の和の思想批判」(平元「駒沢大学仏教学部論集」二〇)
- 黛 弘道・武光 誠編『聖徳太子事典』(平2、新人物往来社)、菊池克美「十七条憲法」
- 岩崎允胤「聖徳太子と憲法十七条の思想」(平元、大阪経済法科大『論集』三七)
- 森 博達「古代の音韻と日本書紀の成立」(平3、大修館書店)
- 宮田俊彦「阿育王の仏法―憲法十七条に对照して:」(平3「藝林」四十一―二)
- 長野一雄「建内宿称伝承と十七条の憲法」(平4「国文学研究」一〇六)
- 石井公成「憲法十七条が想定している争乱」(平4「印度学仏教学研究」四十一―二)
- 小森義峯「世界法史上から見た十七条憲法の意義と特色」(平4「国士館大学政経論叢」八一)
- 小森幸一「太子の十七条憲法」(平7、日本大学理工学部「一般教育教室彙報」五七)

- 深瀬忠一「聖徳太子の十七条憲法」（平7、北星学園大学経済学部「北星論集」三二）
- 鈴木靖民・遠山美都男『聖徳太子とその時代』（平7、日本放送出版協会）
- 瀧音能之「憲法十七条と三経義疏の謎」（平7「歴史と旅」二十二—二）
- 遠山美都男「聖徳太子の事業と事蹟」（平8「歴史読本」四十一—二〇）
- 大山誠一「聖徳太子研究の再検討（上・下）」（平8、弘前大「国史研究」一〇〇・一〇一）
- 石田尚豊「聖徳太子の生涯と思想」（平9、同編『聖徳太子事典』柏書房）
- 石上英一「聖徳太子の政治」（平9、同右）
- 松田和晃「聖徳太子研究史」（平9、同右）
- 伊能秀明「太子十七条憲法の法制史的検討」（平9『法制史料研究』二、巖南堂）
- 神崎勝「十七条憲法の構想とその歴史的意義」（平9「立命館文学」五五〇）
- 小島憲之「聖徳太子団の文学—湯岡碑文記・憲法十七条を中心に—」（平10、「学燈」九十五—四）
- 松尾光「憲法十七条は廷臣たちに読まれたか」（平11、同編『古代天皇一〇一の謎』新人物往来社）
- 大山誠一『〈聖徳太子〉の誕生』（平11、吉川弘文館）
- 大山誠一「聖徳太子関係史料の再検討」（平12「東アジアの古代文化」一〇四↓梅原猛ほか『聖徳太子の実像と幻像』平14、大和書房）
- 石田尚豊「聖徳太子の実像を求めて」（平13『聖徳太子展』図録）
- 東野治之「聖徳太子の時代」（平13、同右）
- 大山誠一編『聖徳太子の真実』（平15、平凡社）

岡野守也 『聖徳太子「十七条憲法」を読む―日本の理想―』(平15、大法輪閣)
前田晴人 「憲法十七条と孝徳朝新政」(平15 「東アジアの古代文化」 一一四)
高田良信 「十七条憲法制定―千四百年に想う」(平16 「明日香風」 九二)
宮地明子 「十七条憲法と律令の関係について」(平18 『日本史の方法』 四)

注

- (1) E所収のDは左の通りである(Eの坂本太郎氏による「解題」を参考に略注を加える)。
- ① 『聖徳太子十七憲章 并序註』：成立平安朝か、著者未詳(伝明一撰)
 - ② 『聖徳太子十七ヶ条之憲法 并註』：文永九年(一二七二) 法隆寺での談義記録
 - ③ 『聖徳太子平氏伝雜勘文(下巻一抄)』：正和三年(二三一四) 橘寺僧法空撰
 - ④ 『上宮太子拾遺記』(第四抄)：同右の補遺
 - ⑤ 『聖徳太子憲法』：成立鎌倉末か、僧玄惠撰(存疑)
 - ⑥ 『太子伝玉林抄』(第十一抄)：文安五年(一四四八) 法隆寺僧訓海撰
 - ⑦ 『聖徳太子御憲法玄惠註抄』：成立室町期、玄惠註の講釈記録
 - ⑧ 『聖徳太子十七憲法註』：寛文十年(一六七〇) 刊、美濃の僧潮音著
 - ⑨ 『十七憲法和解俗洋』：宝永七年(一七一〇) 撰津の岡田溪志著
 - ⑩ 『日本書紀通証』(卷二十七抄)：寛延元年(一七四八) 刊、伊勢の谷川土清著
 - ⑪ 『書記集解』(卷二十二抄)：天明五年(一七八五) 刊、尾張の河村秀根著
 - ⑫ 『聖徳太子十七憲法弁義』：文政三年(一八二〇) 鈴屋門の齋藤彦麻呂著
 - ⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒：明治以降の代表的な著作収録(前掲目録の有賀長雄・黒板勝美・岡田正之・三浦周行・植木直一郎・内藤湖南・牧健二・白井成允・小野精一郎・姉崎正治の各氏論考)
- (2) 伝記(雜誌特集、事典類を除く)のうち主なものをあげれば、左の通りである。

- 蘭田宗恵『聖德太子』（明28、仏教学会）
- 境野黄洋『聖德太子伝』（明37、文明堂↓明41、増補版）境野哲『聖德太子伝』（大9、丙午出版社）
- 久米邦武『上宮（↓聖德）太子実録』（明39、井渊堂↓大8、丙午出版社↓昭63、同著作集1、吉川弘文館）
- 山岡越舟編『聖德太子御伝』（大12、聖德太子一千三百年御忌奉賛会）
- 辻善之助『聖德太子』（大14、『人物論叢』雄山閣、昭28『日本文化史』別録1、春秋社）
- 黒板勝美『聖德太子御伝』（昭14『虚心文集』第二、吉川弘文館）
- 新村出編『聖德太子御年譜』（昭18、山口書店）
- 稲葉園成『聖德太子』（昭19、法蔵館）
- 高島米峰『聖德太子正伝』（昭23、明治書院）
- 家永三郎『上宮聖德法王帝説の研究』（昭26、各論篇、昭28、総論集篇。昭47、増訂版、三省堂）
- 坂本太郎『日本歴史と聖德太子』（昭26『聖德太子と日本文化』平楽寺書店）
- 喜多川忠一『聖德太子―その生涯と思想―』（昭31、好学社）
- 田村圓澄『聖德太子―斑鳩宮の争い―』（昭39、中公新書）
- 井上光貞『聖德太子』（昭40『大和奈良朝』人物往来社↓昭60、同著作集9）
- 福井康順『聖德太子』（昭41、早大出版部）
- 上原 和『斑鳩の白い道の上に―聖德太子論』（昭50、朝日新聞社↓平4、講談社学術文庫）
- 上田正昭『聖德太子』（昭53『日本を創った人びと』1、平凡社）
- 坂本太郎『聖德太子』（昭54、吉川弘文館人物叢書↓平元、同著作集9）
- 新川登亀男『上宮聖德太子伝補闕記の研究』（昭55、吉川弘文館）
- 武光 誠『聖德太子』（昭59、同成社。平6、現代教養文庫）
- 中村 元『聖德太子―地球志向的視点から―』（平2、東京書籍）
- 高田良信『聖德太子の生涯と信仰』（平2、法隆寺）
- 武田佐知子『信仰の王権 聖德太子』（平4、中公新書）

- 前田恵学・田弘道『人間聖徳太子』(平4、講談社)
- 飯田瑞穂『聖徳太子伝の研究』(平12、同著作集1、吉川弘文館)
- 東野治之「ほんとうの聖徳太子」(平12『ものがたり日本列島に生きた人たち』3、岩波書店)
- 遠山美都男『聖徳太子はなぜ天皇になれなかったのか』(平12、角川ソフィア文庫)
- 大山誠一『聖徳太子と日本人』(平13、風媒社↓平17、角川ソフィア文庫)
- 吉村武彦『聖徳太子』(平14、岩波新書)
- 梅原猛・上田正昭他『聖徳太子の実像と幻像』(平14、大和書房)
- 谷沢永一『聖徳太子はいなかった』(平16、新潮新書)
- 田中英道『聖徳太子虚構説を排す』(平16、PHP研究所)
- 本郷真紹編『和国の教主 聖徳太子』(平16『日本の名僧』1、吉川弘文館)
- 中村修也『女帝推古と聖徳太子』(平16、光文社新書)
- 森田悌『推古朝と聖徳太子』(平17、岩田書院)
- ※新川登亀男『聖徳太子の歴史学』(平19、講談社選書メチエ)

〈付記〉本稿は、推古天皇十二年(六〇四)に『憲法十七条』が制定されてから満千四百年の平成十六年度、「日本法制史」演習の参考資料用に作成した手控を基にして、最近若干補訂したものである。なお、初校の段階で、荊木美行氏と木本好信氏から新しく十数点御示教頂いたことに謝意を表しておきたい。(平成十八年十二月晦日)